

代表的な治療薬



作用機序に関するひっかけ問題がたびたび出題されています。副作用や禁忌なども含めて理解しながら覚えましょう。

	薬物名	作用機序・覚えておきたいポイント
Ca ²⁺ チャネル遮断薬	【ジヒドロピリジン系】 ● L型のみ遮断 アムロジピン、ニフェジピン ニトレンジピン、ニカルジピン フェロジピン、マニジピン アラニジピン、バルニジピン ● L型・N型を遮断 シルニジピン ● L型・T型を遮断 エホニジピン、アゼルニジピン ニルバジピン ● L型・T型・N型を遮断 ベニジピン	(Ca ²⁺ チャネル遮断薬について) 血管平滑筋や心筋の電位依存性Ca ²⁺ チャネルを遮断して、Ca ²⁺ が細胞内に流入するのを阻害 → 血管拡張、心収縮力の抑制、刺激伝導系の抑制(抗不整脈作用) 副作用 反射性頻脈、めまい・ふらつき、頭痛、顔面紅潮、浮腫、歯肉増殖 相互作用 グレープフルーツジュースは降圧効果を増強する(CYP3A4を阻害するため) ポイント ・ニフェジピン、アムロジピンは妊婦への投与可とされている ・シルニジピンは、L型だけでなくN型Ca ²⁺ チャネルも遮断してノルアドレナリンの遊離を抑制するため、降圧に伴う反射性頻脈が少ない



レニン・アンジオテンシン (RA) 系阻害薬の作用機序



第109回国試を合格した先輩より

